

令和4年度秋田県総合政策審議会第3回未来創造・地域社会部会（議事要旨）

1 日時 令和4年8月30日（金）13:30～15:30

2 場所 議会棟 大会議室

3 出席者（敬称略）

【未来創造・地域社会部会委員】

加藤 未希（合同会社CHERISH 代表社員）

鈴木 了（まちづくり団体HAPPOTURN メンバー）

竹下 香織（オルウィーヴ合同会社 代表社員）

能登 祐子（能代市自治会連合協議会 会長）

原田美菜子（認定特定非営利活動法人環境あきた県民フォーラム 副理事長）

【県】

水澤 里利（あきた未来創造部次長）

橋本 秀樹（あきた未来創造部次長）

笠井 潤（あきた未来創造部参事（兼）あきた未来戦略課長）

真鍋 弘毅（あきた未来創造部移住・定住促進課長）

六澤恵理子（あきた未来創造部次世代・女性活躍支援課長）

小原 友明（あきた未来創造部地域づくり推進課長）

小熊 新也（企画振興部デジタル政策推進課長）

加賀谷 修（健康福祉部長寿社会課国保・医療指導室長）

石川 亨（生活環境部環境管理課長）

田口 好信（生活環境部温暖化対策課長）

高橋 正嘉（生活環境部参事（兼）環境整備課長）

4 議事

（1）次年度に向けた提言について

□笠井参事（兼）あきた未来戦略課長

部会資料-1～3について説明

●竹下部会長

- ・ 本日は、提言書案をまとめていくために、皆さんから追加すべき提言などを伺う場となる。最後の部会ということで、非常に重要な回である。

- これまでの議論を踏まえて、部会資料－１のとおり、事務局から提言書案が示されているが、補強すべき点などについて、皆さんから御意見をいただきたいと思っている。
- 始めに、提言１「新たな人の流れの創出」においては、「(1)首都圏等からの移住の促進」について、「本県の強みや移住関心層のニーズを把握しながら、移住促進に取り組むこと」、「移住前後のサポートを強化すること」の２点を、「(2)人材誘致の推進と関係人口の拡大」について、「本県の強みを生かしたワーケーションの推進に取り組むこと」、「本県の教育が優れているというイメージを生かし、教育留学を促進すること」、「関係人口を創出・拡大するため、本県の魅力をオンラインなど様々な手段でPRするとともに、受入体制の整備を促進すること」の３点を、「(3)若者の県内定着・回帰の促進」について、「若者への県内就職の促進に向けた情報発信の取組を強化すること」、「県内定着につながるよう、県民が本県の良さを再認識する取組を強化すること」の２点を提言しようとするものである。
- 部会資料－２については、先ほど御説明があったとおり、企画部会における、「学生のキャリア教育の推進」についての御意見が記載されている。
- これらの提言や具体的な方策などについて、御意見があれば伺いたい。

●鈴木委員

- 事前に送っていただいた提言書案を読んだところ、委員の意見がうまくまとめられており、また、前向きになれる内容が多く、非常にうれしく思ったのが正直な感想である。今回は、更により良い提言書になるよう、考えてきたことを話したいと思う。
- 私は６年前に本県に戻って来たが、当時を思い返すと、最も居てくれて助かったのは、八峰町役場の移住担当の方である。今でも付き合いは続いており、困ったことがあれば、今もその方に相談していて、その方の存在が非常に大きいと感じている。
- その方に紹介していただいた方も、付き合いが続いている方が多く、広いネットワークの中から、私にとって必要な方を紹介してくれていたのだと思う。
- その方は、行政職員であるが、民間の方ともよく話し、イベントにも積極的に参加しており、そのような方が行政と民間をつないでくれているのだと改めて思っている。
- 官民連携は、人と人とのつながりにおいても重要なことだと思うので、移住者に対して必要な方を紹介できるように、行政と連携できる関係性でいたいと思っている。
- 提言書に記載する内容ではないかもしれないが、移住した当時を振り返ってみて、最も助かったことを紹介させていただいた。

●竹下部会長

- 他の委員の皆さんの周りに、ここ１年ほどで移住してきた方がいれば、その方から聞いた話などを踏まえて、提言に追加できればと思うが、原田委員はいかがか。

●原田委員

- ・ 移住よりは、仕事を通じた県外の方とのお付き合いが多い。出張で本県に来た方が、1～2か月ほど滞在すると、「秋田が良いところ過ぎて、帰りたくない」と言ってもらえることがある。
- ・ このように、一時的に本県の良さに触れてもらうことで、今は仕事や家族の都合で移住できなくても、10～20年後に移住したいという思いの方は結構いるのではないかと思う。10～20年後に移住を決心してもらえるような、決定的なポイントを確立するために取り組んで行くべきではないかと思う。

●竹下部長

- ・ 提言をご覧になって原田委員が感じたこともお聞かせいただきたい。

●原田委員

- ・ 本県の強みは自然環境だと思うが、都会に自然がない訳ではなく、その違いはデザインされているか、野生のままかということだと思う。本県に足りないのは、人が見て美しいと思えるような、町並みや自然をデザインすることだと思う。他県との違いを出すためには、現代的な感覚で、町を歩いて楽しめるように、県の景色全体をデザインすることも必要ではないかと思っている。

●竹下部長

- ・ 本県が持つ自然を生かした空間づくりや、全体的なデザインがあった方が良いのではないかと御意見をいただいた。
- ・ 加藤委員はいかがか。

●加藤委員

- ・ CHERISHの参加者やレッスンの講師に地域おこし協力隊の方がいるが、私を含め、スタッフは地域おこし協力隊のことを知らなかった。私たちが勉強不足なだけかもしれないが、知らない人も多いと思うので、取組を周知すればよいのではないかと思っている。
- ・ 地域おこし協力隊の中には、移住を考えている方のために、本県に来た場合、どこの保育園や学童等を利用すればよいといったことなどを調整してくれる方もいて、移住者にとっては心強いのではないかと感じている。保育園・学童側の立場としても、そのような方につないでもらえるのはありがたいし、こちらから様々な提案をすることもできると思っている。

●竹下部長

- ・ 地域おこし協力隊の皆さんが、地域の中を動き回って情報や人をつないでいる様子が見られるので、果たしている役割は非常に大きいと思う。
- ・ 能登委員はいかがか。

●能登委員

- ・ 神奈川県にいる娘がUターンを希望しているが、移住サポートの窓口で、東京都内の方でなければほとんど支援がないという話をされた。提言1(1)には「首都圏等」とあるが、県はどの範囲を首都圏等と考えているのか教えていただきたい。

□真鍋移住・定住促進課長

- ・ 質問いただいた点については、県としても問題意識を持っているところである。国の移住支援金という制度であるが、その要件としては、例えば、東京23区内に10年のうち通算5年以上在住している必要があるなど、非常に厳しいものになっている。
- ・ この件については、県にも多くの問合せがあるため、国に対して継続的に要件の緩和を要望しているが、対象地域を東京23区とする要件は残されたままである。移住希望者は、東京都の23区外や神奈川県等にも相当数いるので、対象地域を広げてほしいと常々思っている。
- ・ 県独自の移住支援制度については、23区外や他県の方も対象としているものもある。県としては、移住希望者や地方の様々な団体と、目線を合わせながら、国に要望を続けていきたい。

●能登委員

- ・ よろしく願います。
- ・ 移住や定住について、まだ受入れの環境が整備されていないと感じている。移住してきた方の話を聞く機会があったが、本県の賃金水準が低いと、子育てが大変とのことであった。2人目の子どもが生まれるのに合わせ、それまでの賃金では間に合わないため転職したものの、地域全体の賃金水準が低いので、転職しても賃金はあまり変わらず、転職を繰り返す状況になったとのことであった。
- ・ また、能代市の補助金を活用しながら、空き店舗を借りて起業をした方の話では、能代市は空き店舗の上階に居住者がいる物件が多いため、トラブルになることが多いとのことであった。
- ・ 新天地に移住してきた方は、何も分からない状況であるため、やりたいことを円滑にできるように、市町村が環境を整備する必要があるのではないかと。
- ・ 提言1(3)②に「本県の良さ」とあるが、「本県の魅力」としてはどうか。大変魅力のある本県なので、その魅力を積極的にPRした方が良いのではないかと。

- ・ 関係人口の創出・拡大については、私も県北担当としてオンラインによる関係人口づくりに関わっている。郷土料理と宇宙を題材にして全国に発信し、十数名の方が参加してくれたが、ほとんどの方が「宇宙のまち能代」のことは知らなかった。8月に「能代宇宙イベント」があり、そこでだまこ鍋を振る舞うので、能代に来てくださいと誘ったところ、実際に1名の方が来てくれた。やはりアクションを起こすことや、オンラインを活用して本県の魅力を発信することが重要だと感じている。
- ・ 今後も関係人口づくりに取り組んでいくので、また皆さんに報告できればよいと思っている。お祭りなどもそうだが、皆さんがそれぞれの立場で一生懸命に取り組んでいることを発表できる場があればよいと思っている。

●竹下部会長

- ・ 提言書案の文言について御指摘をいただいた。後ほど、事務局と打合せの上で修正したい。
- ・ 私からも1点申し上げる。提言1(3)①について、「若者の県内就職の促進」とあるが、起業やチャレンジをしたいと考えて移住やAターンする方もいて、必ずしも就職だけが選択肢ではないと感じるので、「起業等」といった文言も入れればよいのではないかと感じている。移住者を受け入れるに当たって、選択肢は就職だけではないということを発信することが非常に重要なのではないと思う。文言の追加については、後ほど事務局と相談したい。

●鈴木委員

- ・ 提言1(2)①及び②のワーケーションについては、私の意見を取り入れていただき、うれしく思っている。やはり本県のワーケーションや教育留学はこのような方向で進めば、成功が見えてくるような気がしている。
- ・ 提言書案に記載することではないかもしれないが、ワーケーションの取組が進むと、確実に交通手段が課題になると思う。ワーケーションや教育留学で、県内に拠点置いて滞在する場合、買い物にしても観光にしても、車がなければどこにも行けない。そこは都会におけるワーケーションとの差であると思うので、車がない方やペーパードライバーの方など、状況別に対処法を考えておけば、次のステップに進みやすくなるのではないか。
- ・ レンタカーやカーシェアとのセット、子どもが教育留学で勉強している間に親がペーパードライバー教習を受けられるセットなど、ワーケーションは車とセットで考えていただきたい。

●竹下部会長

- ・ 本県での生活に、なくてはならない「足」については、大きな問題だと思われるので、

具体的な方策にプラスしていただきたい。

- ・ 提言2に進みたいと思う。提言2「結婚・出産・子育ての希望がかなう社会の実現」においては、「(1)結婚・出産・子育てを前向きに捉える気運の醸成」について、「結婚・出産・子育てに前向きな気持ちを育むため、中学生や高校生の早い段階から、結婚や子育てについて考える機会を設けること」、「将来的に結婚・出産・子育てを考えている人が、子育てを楽しんでいる人の様子を知ったり、子育てを応援する空気を感じるような機会をつくること」の2点を、「(2)出会い・結婚への支援」について、「独身者が参加しやすい、気軽な出会いの場づくりに取り組むこと」、「『出会いがない』と感じる若者に対して、出会い・結婚に関する支援の情報を届けること」の2点を、「(3)安心して子育てできる体制の充実」について、「女性・男性にかかわらず、親が育児にしっかりと向き合える働き方が広がるよう社会の気運を醸成するとともに、企業等の取組を支援すること」、「子育てにおける様々な悩みに対応できるような支援を行うとともに、子育て支援サークルに対する支援を強化すること」、「地域で子育てを応援する仕組みづくりに取り組むこと」の3点を提言しようとするものである。
- ・ 提言の中身や具体的な方策について、御意見を伺いたい。加藤委員いかがか。

●加藤委員

- ・ これまでに提案した内容が提言書案に多く記載されており、このような取組が進んでいけばよいと思っている。特に、子育て支援サークルに対する支援強化や、働きやすさに関する企業の意識改革などの取組が具体的に進めば、魅力的だし、安心して子育てできるようになると思う。
- ・ CHERISH自体、子育て真っ最中のスタッフが多いが、最近では、CHERISHがどのような働き方の体制となっているか話を聞きたいという企業が多い。また、CHERISHの参加者が、働き方を考えるきっかけを作るために、自らの職場とCHERISHをつないでくれることもある。
- ・ 働き方の体制を整える企業が増えていると感じるので、これをチャンスと捉えて、多くの企業に働き方を再確認してもらうことで、本県全体が働きやすい状況になればよいと思っている。
- ・ 提言書案については、この内容で良いと思っている。

●竹下部会長

- ・ 初回からの意見が反映されていると思う。
- ・ 原田委員はいかがか。修正や追加などはあるか。

●原田委員

- ・ 大変細かく網羅されていると思う。

- ・ やはり子育てや結婚に関しては、女性が中心の記載となっているが、男性目線の記載が少しあってもよいと思う。本県は都会と比べると、まだ昔ながらの風潮で働いているお父さんが多いと思うので、日中に気軽に家族の様子を見に行ける、家族のために早く帰れる、休みをしっかりとれるなど、働いているお父さんが子育てしやすくなるための企業への支援や、お父さんたちの意識改革が、結果的にお母さんたちの助けになっていくと思う。

●竹下部会長

- ・ 男性の視点も提言に取り入れてほしいとの御意見をいただいた。
- ・ 鈴木委員はいかがか。

●鈴木委員

- ・ 原田委員の御意見を聞いて、当たり前かもしれないが、女性目線の提言が多くなっているというのは、確かにそのとおりだと思った。
- ・ 私は今日の午前中、小学生の息子のプールの記録会を40分ほど見学してきた。妻が仕事を休めなかったので私が行ってきたが、生徒30名弱のクラスで、お父さんは4名、お母さんが十数名、全体で20名程度の保護者が見学に来ていた。
- ・ 父親同士で、「父親はいつも自分たちだけだよ」という話をちよどしてきたところで、こうした場にお父さんが行けるようになるには、やはり企業のサポートが非常に重要になると感じている。

●竹下部会長

- ・ 男性目線という点では、やはり企業の理解が紐付けられると感じた。提言2(3)①に「企業等への啓発が必要」と記載されているので、提言には盛り込まれているものとの理解で進めたい。
- ・ 能登委員いかがか。

●能登委員

- ・ 提言2(3)③の「地域で子育てを応援する仕組みづくり」は重要なことだと思うし、我々の世代が協力できる部分ではないかと思っている。昔とは全然違い、今の若い世代は夫婦が協力的で、うらやましい限りである。
- ・ 企業の意識改革とともに、家族の意識改革も必要であり、60歳代以上の我々世代は、子育ては母親がするものという考えの方がまだ多いので、地域の中で、その辺りの意識改革について皆で考えられるような機会や環境があればよいと思っている。
- ・ 提言書案は委員の意見が盛り込まれているので、これで良いのではないかと思っている。

●竹下部会長

- ・ 提言書案には、家庭、職場、地域について盛り込まれているので、体制の充実を図っていくことが伝わってくる内容となっていると感じている。
- ・ 他に御意見はあるか。

●加藤委員

- ・ 最近、CHERISHに一時預かりができるかとの問合せが多い。保育園や幼稚園では、定員に空きがなければ一時預かりは受けられないが、どこに聞いても空いていないようで、CHERISHはどうかとの問合せが来る。残念ながら、CHERISHでも空きがないため、お断りしなければならない状況である。
- ・ 託児サークルなどに預けるという方法もあるが、託児は最低でも「時給×預ける時間」分の費用が発生し、親にとっては結構な負担となるため、利用者が少なく、託児だけで仕事として成り立たせるのは難しい状況である。
- ・ ママたちからの一時預かりをしてほしいという声があるにもかかわらず、保育園や幼稚園で一時預かりを受けられない現実があるので、受入施設を増やすべきではないかと考えている。用事があるときだけでなく、リフレッシュしたいときや美容院に行きたいときなど、いつでも気軽に利用できる施設があれば理想的だと思っている。

●竹下部会長

- ・ 一時預かりの問題は大きいと思う。また、今のコロナの状況で、隔離状態になった時にどうするのかなど、細かく見ていくと足りていない部分が多いのではないかと思うが、提言書案の具体的な方策に盛り込まなくとも、今後の課題として皆さんと共有したいと感じている。
- ・ 私からも1点申し上げる。最近お会いした方の話であるが、お子さんが発達障害を疑われており、まだ診断は受けていないが、学校生活に馴染めておらず、教師からも授業中に落ち着きがないと言われて、非常にモヤモヤしているとのことであった。
- ・ そういった子どもを預かってくれる場もあるが、障害の認定がなく、普通の生活に馴染めない子どもを抱えながら働く親は、モヤモヤしているものを感じているのだと考えさせられた。
- ・ 提言2(1)②の具体的な方策には、「シングルマザー等を応援する」とあるが、シングルマザーだけでなく、まだまだ顕在化していない問題で悩んでいる親がたくさんいるということを、将来的な課題として認識し、今後の話し合いができればよいのではないかと感じている。
- ・ 続いて提言3に進みたいと思う。「女性・若者が活躍できる社会の実現」においては、「(1)男女共同参画の推進」について、「多くの県民が学び、交流する機会を設けることなどにより、根強く残る性別役割分担意識の解消に取り組むこと」の1点を、「(2)あら

ゆる分野における女性の活躍の推進」について、「女性自身の意識改革に向けた取組が浸透していないので、県の取組などを広く周知するとともに、一層の推進を図ること」、「女性が活躍しやすい環境や、活躍している女性が集まりやすい環境づくりを進めること」の2点を、「若者のチャレンジの支援」について、「若者のチャレンジを段階に応じ、継続的に支援できる仕組みづくりを進めるとともに、身近にいるロールモデルとなる人材と交流できる環境を整えること」の1点を提言しようとするものである。

- ・ 皆さんから、提言の内容や具体的な方策について、御意見をいただきたい。鈴木委員いかがか。

●鈴木委員

- ・ 私自身、地域おこし協力隊を経て、20歳代で自営業の独立を経験したが、やはり支えてくれた人の力が大きかったと思っている。地域おこし協力隊を経て起業する方は、数多くいるので、今後も地域おこし協力隊の制度を利用して本県に来て、活躍してもらおうといったことが継続できればよいと思っている。
- ・ 最近、新聞で地域おこし協力隊の募集記事を見て驚いたのだが、給与が私の時代よりも大幅に上がっていた。能代市では今、月26万円の給与で募集していたが、私は16万円台だったので、この6年間で何があったのだろうと思っている。
- ・ 給与が上がっていることは、応募する方にとっては非常に前向きなことであり、都会で働いてきた方は、同程度の給与をもらっていたと思うので、抵抗なく応募できるのではないかと思う。
- ・ その反面、3年間の任期満了後に、26万円と同程度の給与を払える一般企業が地域にどれだけあるのかと不安に思ったのが正直なところである。就職活動したら10万円台しかなかったということもあり得るし、起業するにしても、最初から26万円を稼ぐのは結構ハードルが高いので、地域おこし協力隊の給与がよくなった分、任期満了後のギャップが生まれやすくなると思う。チームをつくるなどして盛り上げていかないと、任期満了後に元の場所に戻ってしまう、あるいは別の場所に行ってしまうというパターンが増えるのではないかと思っている。

●竹下部会長

- ・ 非常にジレンマを感じるころである。給与を高くしなければ来ないだろうし、高くし過ぎると、任期満了後に定着しないだろうという問題である。鈴木委員のように、例えば起業したいというビジョンを描いて来る方にとっては、地域おこし協力隊は有効なステップになると思うが、その先を描けていないまま来ってしまうと、任期満了後に非常に苦しくなってしまうということはあると思う。
- ・ 原田委員はいかがか。

●原田委員

- ・ 男女共同参画については、20年、あるいはそれよりも前から、県として力を入れている分野だと思っている。私自身イベントに参加したこともあるし、知人に旗振り役を頑張っていた方も多くいるが、そういった方々の努力により、変わってきた経過や、変えなくてはいけないところが見えてきていると思う。
- ・ 男女共同参画は、容易に変えられない壁の厚い問題だと思うが、これまで活動してきた方々の経験から、今後変えていかなければならないポイントを絞って、明確化する必要があるのではないかと考えている。
- ・ 提言書案の内容としては、特に変える必要はないと思うが、男女共同参画はこれからも気長に取り組んでいかなければならない大事な問題だと思っている。
- ・ 女性の意識改革については、本日の委員もほとんどが女性で、すごいなと思って話を聞いているが、一般の県民の方々にも、こういった女性の取組や活躍が伝われば、触発される方が増えると思うので、県から情報を発信していただきたい。

●竹下部会長

- ・ 今一度、課題を洗い出して、具体的な方策を立てていく必要があるということと、県からの情報発信について、御意見をいただいた。
- ・ 昨日、県でラウンドテーブルとあって、女性活躍に関して、講演会を踏まえた上で、ワークショップをしながら意見交換を行うといったイベントを開催した。県ではこうした様々な方策に取り組んでいるが、まだまだ対象がごく一部の方に限られているように私も感じている。
- ・ 県としては、様々なメディアを通じて発信を行っているようであるが、息の長い取組を続ける必要があるのではないかと御意見をいただいた。
- ・ 能登委員はいかがか。

●能登委員

- ・ 皆さんの御意見はそのとおりだと思っている。私は、3年前から女性のリーダー育成講座というものに関わってきて、今年度が最後となっている。県北、中央、県南の各地域で女性のリーダーの話聞くなどして、リーダーの育成に取り組んでいるが、参加者から、実際に自治会の役員に手を挙げたというような報告もあり、こうした場をつくることが大変重要だと思っている。
- ・ それでは3年経過して、女性のリーダーが多く育ったかと言うと、そこまではいかない。私も、女性が誰もいなかった時代から、17年自治会長を務めているが、連合自治会の中で、女性の自治会長は私のほか1人だけである。267ある自治会の中で、女性の自治会長は2人だけしかいない。

- ・ 女性の副会長はたくさんいるので、有能な女性はたくさんいるが、自分から会長に手を挙げることは絶対はない。やはり意識改革が必要なのだろうが、周りから背中を押されて、やむを得ずリーダーになるというパターンがほとんどだと思う。
- ・ 女性でもできるということを皆さんが認識して、その中で積極的に女性を選ぶという環境をつくるのが重要だと思うし、女性たちも自分ができるということを自覚すべきだと思う。
- ・ 3年間、県内各地に行かせてもらって、やはり女性自身の意識改革が最も重要だと思っている。この事業は今年度で終わるが、リーダーの育成でなくてもよいので、できれば女性の活躍のための場をなくさないでほしいというのが私の希望である。何らかの形で、こうした意識改革ができる、自信を持てる、勇気を持てる場を作してほしいと思っている。
- ・ 最後の12月の講座では、女性各自が勇気を持つことが重要であるということを皆さんに話そうと思っているが、家族や企業など、周りの理解も重要であり、全体のバランスや連携が必要だと思っている。是非、事業の継続を願っているので、よろしく願います。

●竹下部会長

- ・ 非常に熱い思いを感じる御意見をいただいた。女性自身の意識改革が重要であること、周りの理解や連携も重要であることについての御意見であった。
- ・ 行政の事業は、どうしても単年度あるいは3年間といった区切りで終わってしまうことがあり、そこは私も問題があると感じている。形は変わったとしても、何かしら女性活躍の意識付けを継続できるような体制を望んでいるとの御意見をいただいた。
- ・ 加藤委員はいかがか。

●加藤委員

- ・ 女性の活躍が増えていると感じている。一方で、結婚前からバリバリ働いていた女性であれば、子どもが生まれても、夫は共働きを抵抗なく受け入れられると思うが、出産・子育てのために、一旦社会から離れた女性が復帰して、更に活躍するとなると、夫の理解が追いつかず、妻に家事・育児を求めることが多いと思う。
- ・ これまでどおり家事・育児をこなしながら、仕事もがんばろうとすることで、体がついていかず、体調を崩してしまう女性がいるという話を聞く。女性としては、社会的に活躍したいと思っても、家事・育児がおろそかになってしまうと、夫から「やるべきことをやれ」という圧を感じることもあるようで、やはり家庭の問題が大きいと感じている。
- ・ 女性の活躍には、企業の理解が必要なのはもちろんであるが、やはり最終的には家庭であり、夫の価値観や考え方の影響が大きいと考えている。例えば、女性活躍についての

講演会などのイベントを開催する場合、男性にも参加してもらことで、考え方が変わっていけばよいと思っているので、男性に対しても発信していけばよいのではないかと。

●竹下部会長

- ・ 先ほどから男性の視点という話が出ているが、家庭が大事だからこそ、男性にも理解してもらえる場を作ってほしいという御意見であった。
- ・ 私から確認であるが、提言3(2)②具体的な方策の2つ目が、具体的に何を指しているのか分からないので教えていただきたい。

□六澤次世代・女性活躍支援課長

- ・ 能登委員からの御提案であった。一度首都圏に出て、戻って来た方が活躍しているとのことで、女性の定着に取り組むだけではなく、進学や就職で一度県外に出ることは仕方がないとしても、本県に戻って来て活躍できる環境を作っていくことも必要ではないかという御提案である。

●竹下部会長

- ・ 能登委員からの御意見とのことであるが、能登委員から補足はあるか。

●能登委員

- ・ 女性のリーダーなど、様々な方の話を聞くと、一度県外に出て、他の環境を知ることによって、本県の魅力を確認することができ、ふるさとに回帰してなんとかしたい、活性化したいという気持ちになるとのことである。
- ・ 私はもともとよそ者の視点で、「秋田県はすごいな」と思っているが、Aターンの方は、県外に出ることで、本県にいたときには分からなかった価値観が生まれるのだと思う。
- ・ 地域の中に根付いてくれる方には、このような女性が非常に多いと感じている。

●竹下部会長

- ・ 理解した。表現の仕方として、背景が分かればよいと思う。事務局と相談して修正したい。

□六澤次世代・女性活躍支援課長

- ・ 見直しをして、御説明いただいた内容が分かるように工夫したいと思う。

●竹下部会長

- ・ 他の具体的な方策より、更に踏み込んだ方策になっている気がするので、事務局には、場合によっては能登委員にも話を伺いながら、修正していただきたい。

- ・ それでは次に提言 4に進みたいと思う。「変革する時代に対応した地域社会の構築」においては、「(1)優しさと多様性に満ちた秋田づくり」について、「多様性に満ちた社会づくりに対する理解を浸透させるため、学校における教育や意識啓発等を継続して行うこと」の 1 点を、「(2)地域住民が主体となった地域コミュニティづくり」について、「地域コミュニティの維持・活性化のため、幅広い年齢層が交流できる拠点づくりや、若者をはじめとする地域住民が主体となった活動を進めること」の 1 点を、「(3)多様な主体による協働の推進」について、「多様な主体の活動をつなぐ場をつくること」の 1 点を提言しようとするものである。
- ・ 提言の内容や具体的な方策について御意見をいただきたい。能登委員いかがか。

●能登委員

- ・ 提言書案にはこれまでの意見が反映されているので、これで良いと思っている。
- ・ 私も、若者から高齢者まで、幅広い年齢層の中で活動しており、多様な業種であったり、様々な方と関わることが、大変重要なことだと思っている。我々世代にはない知恵を若者に教えてもらったり、力を貸してもらったりしているので、この提言内容で良いのではないかと思う。
- ・ 特に私は中心市街地に居住しているので、衰退が著しく、高齢化もものすごいスピードで進んでいるので、どのようにしてこの街を活性化すればよいのか、非常に難しい状況になっている。毎週朝市もやっているが、高齢者がどんどん減っているのが目に見えて分かる。
- ・ こうした状況にあっては、やはり若者をはじめとして様々な方に支えていただかないと、地域が成り立っていかないと思っている。地域コミュニティは非常に重要であって、難しい問題である。
- ・ 若い委員の皆さんがどのように考えているのか聞きたい。

●竹下部会長

- ・ それでは、加藤委員はいかがか。

●加藤委員

- ・ 多くの人に関わることで、様々なアイデアが生まれると思うので、交流の場が増えれば、地域コミュニティの維持や活性化につながっていくものと思っている。
- ・ CHERISHでも、地域の方とコミュニケーションを取りながら活動したいと常々思っており、地域の方と一緒に何かできないかと思っているが、コロナ禍の影響によりここ 2～3 年は、地域のお祭りなどもできない状況になっている。コロナ禍の中で、私達に何ができるのか、課題と感じている。

- ・ 今年は竿燈まつりが開催された。CHERISHのある茨島にも茨島竿燈会があるが、初日にCHERISH保育園の前で、竿燈を上げる姿を子どもたちに見せてくれた。茨島竿燈会に入りたいという子どもたちが多く、こういった形で地域との交流が深められればよいと思っているが、やはりコロナ禍の影響で、どこまでできるのか課題になっているので、考えながら行動していきたいと思っている。

●竹下部会長

- ・ 能登委員どうぞ。

●能登委員

- ・ 少し思ったのだが、教育や育成という言葉が提言の中に入っていない。子どもたちが、地域やふるさとを好きになるための育成は、提言に入らないものかと思った。
- ・ 子どもたちが自らの地域を好きになるためには、やはり大人が育成する必要があると思う。加藤委員から話があったように、子どもたちが地域と関わることが重要で、地域におけるイベントや行事などに、子どもたちを関わらせて、体験をさせながら育成することが重要ではないかと思った。

●竹下部会長

- ・ 地域で子どもを育てるといった視点の御意見であった。事務局と相談しながら、具体的な方策に盛り込むことができればよいと思う。
- ・ 鈴木委員はいかがか。

●鈴木委員

- ・ 提言4については、細かい意見が3つあるので、一つずつ進めて行きたい。
- ・ まずは、提言の背景の二つ目に、「生活交通や買い物等の日常生活を支える機能の低下が懸念され」とあるにもかかわらず、これに対するサポートについての提言がないが、これは問題ないのか。

□小原地域づくり推進課長

- ・ 近いとすれば、(2)のコミュニティづくりの提言に入ってくると思うが、具体的に生活課題に関する記載がないので、改めて検討させていただきたい。

●鈴木委員

- ・ お願いする。私たちも、これに関する発言ができていなかったと思う。
- ・ 二つ目は、提言4(2)①具体的な方策の一つ目に「幅広い年齢層が交流できる拠点づくりを進める必要がある」とあり、おそらく私の意見が元になっているものと思う。幅広い

年齢層が交流できることは大事なことであるが、こうした言葉を受けて作られる施設が、面白くないものになりがちだということは、認識を共有したいところである。

- 具体的には、バリアフリーはもちろん、赤ちゃんからおじいちゃん・おばあちゃんまで、皆が行ける施設となると、平均的でならされたものになり、病院や図書館などといったイメージになってしまうが、既にそのような施設はあるし、誰が行くのかという問題が生じると思う。
- ある一定の年齢層など、ある一定の特性の人がどうしても行きたくなるような尖った施設にすれば、その特性の人が周りの人を連れてくることで、結果的に幅広い年齢層の人が集まるようになると思う。例えば、赤ちゃんや子どもだけがとても楽しめる施設を作ると、子どもを連れてお母さんやお父さん、孫を連れておじいちゃんやおばあちゃんも行くようになるなど、まずは誰かがどうしても行きたくなるような、魅力的な施設を作る必要があるのではないかと思っている。
- 様々な人との会話により、活動のアイデアが生まれるので、人が集まる拠点があればよいと思ったが、「幅広い年齢層が交流できる」という点に引っ張られると、非常に危ういと思うので、気をつけて進めていただきたい。
- 3つ目は、この夏に地元でお祭りを二つ経験したが、一つが八峰町の「みこしの滝浴び」という、みこしを担ぎながら、最後は滝壺に突っ込むというもので、3年ぶりに開催されて、久々にみこしを担いだ。今回は町民だけで開催したため、非常に参加者が少なく、みこしを台車に乗せて運ぶという、担ぎ手としては屈辱的な時間がありながらも、なんとかやり遂げることができ、開催できて良かったと思っている。
- もう一つが、八峰町峰浜石川地区の駒踊りである。馬の付いた衣装で踊るもので、私はまだ踊りを覚えていないので参加していないが、子どもの練習に2か月位付き合ったことで、石川地区の熱い団結力を感じた。
- 八峰町のように人口が少なくなっている地域では、祭りの継続が難しくなってくるのが目に見えているし、駒踊りは、おじいちゃんががんばって踊りを伝えているのを、もう少し効率よくできないかと思いながら見ていたので、地元のつながりを確保しながら、他の地域から応援に来てもらうなど、サポートする体制づくりもコミュニティづくりなのではないかと思う。
- 秋田市の竿燈まつりは、ものすごい祭りであり、若者も参加するので、秋田市民の方は祭りの存続に関する危機感がないのだろうと思う。

●竹下部長

- 能登委員どうぞ。

●能登委員

- 鈴木委員の話のとおり、祭りは非常に大事なことだと思う。様々なしきたりがあるなど、

- やっかいな面もあるが、祭りは伝承していかなければならないし、伝承していきたい。
- ・ やはり伝統を受け継ぐとなると、子どもたちの育成ということにつながると思うが、祭りで子どもを育てることが大事だと思うので、ここの提言に祭りや地域の行事などといった言葉が入ればよいと思う。

●竹下部会長

- ・ 祭りは本県には欠かせないもので、一体感の醸成や、祭りのために地元に帰ってくるといふことにもつながるので、大事なことだと思う。
- ・ 祭りという言葉が提言に入れることや、祭りを子どもの育成につなげることについて御意見をいただいたので、事務局には修正をお願いしたい。
- ・ 原田委員はいかがか。

●原田委員

- ・ 鈴木委員と能登委員が話されたとおり、(2)の「地域住民が主体となった地域コミュニティづくり」には、地域で集まる機会として、祭りやイベントは欠かせないものだと思うので、今まとめていただいたことを、そのまま提言に反映してもらえればよいと思う。

●竹下部会長

- ・ 続いて提言5に進みたいと思う。「脱炭素の実現を目指す地域社会の形成」においては、「(1)脱炭素化に向けた県民運動の推進」について、「豊かな自然等を活用した環境教育を推進すること」、「無関心層を含めた幅広い層の環境教育を促進すること」、「建築事業者に対する住宅の省エネ化に関する啓発を行うこと」、「産業界の脱炭素化の取組状況を県民に周知すること」の4点を提言しようとするものである。
- ・ 皆様から提言や具体的な方策について、御意見をいただきたい。原田委員いかがか。

●原田委員

- ・ 多方面について網羅されていると思っている。「無関心層を含めた幅広い層の環境活動の促進」について、各世代が参加したい活動は、それぞれ違うと思うので、この文だけで盛り込んでいるのかと思ったところであるが、ごみ拾いやイベントという言葉があるので、世代にかかわらず参加できるものと読めると思う。
- ・ 「建築事業者に対する住宅の省エネ化」について、移住にもつながってくるかと思うが、建築事業者だけでなく、家を建てたいと思っている方も対象に含めた方が良いのではないか。若い世代や、子育てが一段落した世代など、家を建てたいと思っているあらゆる生活者に、省エネ住宅等について知ってもらう必要があるのではないかと思っている。

●竹下部会長

- ・ 省エネ住宅に関しては、建築事業者だけでなく生活者も啓発していく必要があるのではないかという御意見であった。提言に盛り込んでいただければと思う。
- ・ 鈴木委員いかがか。

●鈴木委員

- ・ 私も原田委員と同じで、建築事業者だけに限定する必要はないのではないかと思った。家を新築する方に知識があればよいし、建築事業者も知識を提供できればよいと思う。
- ・ また、既に家を持っている方にもできることは結構ある。この夏も暑かったが、この会議室のような大きい窓から太陽の光が入ってくると、こたつ一つ分ほどのエネルギーがあるので、大きい窓が2、3枚ある家は真夏でもこたつ三つ並べているようなものである。それを防ぐためにカーテンを閉めると思うが、内側でカーテンを閉めても、太陽の熱は4割程度しか防げない。一方で、外側にすだれやシェードを置くと8割カットできる。
- ・ このように、既に家を持っている方にもできることがあるので、分かりやすく県民に伝える機会があってもよいのではないか。こういったことを勉強すると大変楽しいので、県民に共有していきたいと思っている。

●竹下部会長

- ・ 具体的な話で、もう少し聞いてみたいと思った。おそらく、私のように知らない方はたくさんいると思う。
- ・ 環境の分野は一部の方だけが一生懸命取り組んでおり、気にはなるものの、知識がない私たちはどうすればよいのだろうと思ってしまうので、取っ掛かりになるような生活に密着した話であれば、関心は高いのではないかと思った。
- ・ 加藤委員いかがか。

●加藤委員

- ・ 私の家の向かいに実家があり、とても大きい窓があるが、すだれを置いている。鈴木委員の話聞いて、「あれか」と思った。やはりすだれがあると全然違うという話をしていた。このようなことは、知らない方がたくさんいるし、若い世代にも伝えていくことが大事だと思う。
- ・ 更に先のことを考えると、教育などにより子どもうちから知識を得ることができれば習慣化すると思うので、子どもうちから学ぶことは大事だと思う。
- ・ 私の子どもも、学校で聞いてきたことを教えてくれるが、私には分からないことが多い。こうしたことが家族の会話になるし、子どもが教えてくれたことは、親としては実践したいと思う。

- ・ イベントや体験活動があれば、参加したいと思う親は多いので、学校で学べない部分は行政や民間のイベントなど、親子で勉強できる場が増えればよいと思っている。

●竹下部会長

- ・ 子どもが家族と情報共有や勉強ができる場について、具体的な方策に入れてもよいのではないかと感じたので、検討していただきたい。
- ・ 能登委員はいかがか。

●能登委員

- ・ 質問であるが、再生可能エネルギーについての提言がないが、盛り込まなくてよいのか。八峰町、能代市、男鹿市、由利本荘市など、本県は風力発電が盛んであり、再生可能エネルギーは脱炭素につながると思うが、いかがか。また、SDGsという言葉も入っていないが、あえて入っていないのか。

□田口温暖化対策課長

- ・ 再生可能エネルギーについての記載がないのは、この部会で脱炭素化に関して提言をいただく内容は、あくまでも県民に対する普及啓発に関してであり、再生可能エネルギーの導入という電力の脱炭素化は、産業・雇用部会において検討していただく事項となっている。
- ・ SDGsに関する教育については、文言としては明記していないが、提言5(1)①に包含されている。

●能登委員

- ・ 再生可能エネルギーについては、別の部会で議論されているということで理解した。
- ・ 記載していただいた私たちの活動や、高校生との活動については、継続していかなければ意味がなく、これも育成だと思っているので、子どもたちには環境や脱炭素のことを学んでほしいと思っている。
- ・ 提言書案はすべて記載されているので、このままで良いと思う。

●竹下部会長

- ・ 先ほどいただいた追加すべき意見は、事務局と相談しながらまとめていきたい。
- ・ それでは最後の提言6に進みたい。「行政サービスの向上」においては、「(1)デジタル・ガバメントの推進」については、「オンラインで提供するデータやサービスの拡充を一層強化すること」、「デジタル弱者に対するフォローを充実させるなど、デジタル・デバイドの対策を講じること」の2点を、「(2)県・市町村間の協働の推進」については、「人口減少下においても、適切な行政サービスを維持していくため、様々な分野で県・市町

- 村が一層連携を強化して、取組を推進すること」の1点を提言しようとするものである。
- ・ 皆さんから御意見をいただきたい。原田委員いかがか。

●原田委員

- ・ この中だけでまとめるのは非常に難しいテーマだと思う。デジタル化に対応できていない人がどの程度いるのか把握できる前提での提言であるか確認したい。

□小熊デジタル政策推進課長

- ・ 内閣府政府広報室「情報通信機器の利活用に関する世論調査」に基づく共同通信社発表資料によれば、デジタル機器の操作が不得手な高齢者は、日本全体において60歳以上の方が約1千万人であり、本県では約10万人と推定される。この10万人のうち65歳から74歳までの人口は約39,000人であり、県では、この年齢層の方々を主な対象としてスマートフォン体験会を実施している。
- ・ 県では、昨年度からスマートフォンの無料操作体験会を実施しており、今年度も200回、2,000名を対象として実施している。約39,000人に対して2,000人なので、まだまだ少ない数であるが、県だけでなく、キャリア、国、JAなどでもスマートフォンの無料操作体験会を実施しており、こうした地道な活動を続けていきたい。
- ・ また、地域で寄り添いながら、例えば老人クラブなどに入り込んで、気軽に相談に乗ることができるサポーターの育成にも取り組んでいる。

●原田委員

- ・ 地道な活動をされていて、感動した。苦手な方にとっては、誰に聞けばよいのか分からないことが最も大変なことだと思うので、サポーターを育成することで、地域に教えてくれる人がいれば、安心につながると思う。サポーターが本格的に普及するように応援したいと思う。
- ・ これから試行錯誤の分野だと思うが、ここに記載されている提言に関して、私からは特に意見はない。

●竹下部会長

- ・ 気軽に聞けるサポーターを充実してほしいという話や、サポーターがどこにいるのか分かるようにしてほしいという話は、具体的な方策に一言記載すればよいのではないかと考えた。
- ・ 加藤委員いかがか。

●加藤委員

- ・ 先ほど話したように、向かいが実家なので、親がいつもスマートフォンの操作を聞きに

来る。こちらとしては当たり前のように操作できることでも、やはり分からないようで、一から教えているが、近くに子どもがいなくて、聞ける人がいない方もたくさんいるのだらうと思う。

- 先ほどの説明では、サポーターが老人クラブに行くとの話があったが、私の家の近くの南部市民サービスセンターのように、おじいちゃん・おばあちゃんが集まる場所に出張して講演や講座などを開催すれば、参加者が増えるのではないかと考えていた。サークルなどに出張して行くというのは、求めている人がたくさんいると思う。
- 私が拠点としているアスレティック・クラブさんにも、元気なおじいちゃん・おばあちゃんがたくさん体を動かしに来ているので、こういった場所で体験会を開催すれば、少し聞いてみようと思う方も増えると思う。私たちCHERISHも、おじいちゃん・おばあちゃんと会話する機会が多いので、私たちにできることをつなげていきたいと思っている。

●竹下部長

- 鈴木了委員はいかがか。

●鈴木委員

- 先日、八峰町に観光客がどの程度来ているのか、観光客が減少しているのかを調べるために、オープンデータを初めて活用したが、何年ものデータが蓄積されており、非常に助かった。
- 少し時代が進めば、「八峰町」と検索するだけで、八峰町のデータが並ぶようになるのではないかと考えている。今は、ある年をクリックしてPDFファイルを開き、八峰町を探してメモ、また次の年をクリックしてPDFファイルを開き、八峰町を探してメモ、という使い方となっている。調べたい部分だけを効率よく調べられる時代が来れば、起業や事業発展の際に、大変役に立つのではないかと感じた。とは言え、データを見られることだけでも大変ありがたいと思っている。
- デジタル・デバイドの対策に関して、私も加藤委員と同様、両親にスマートフォンの使い方を教えているが、先日、母から家族のLINEグループに、見ると幸せになると言われている写真が送られてきた。調べると、十数年前、私が高校生の頃にはやっていた「チェーンメール」というものが、今は母の世代で流れているようである。それは悪質なものではなく、ただその画像がはやっているだけであるが、大丈夫かと心配になった。
- こうしたことがあると、デジタル弱者がオンラインでできることが増えることで、行政になりすました者から届いたメールなどを信じてしまって、クリックしたら詐欺だったということも起きてしまうのかと思った。デジタル化が進むとともに、悪い人も頭を使って様々な手口を考えるとと思うので、その点についての啓発をしっかりとしてほしい。

- ・ デジタル化自体に悪いことはなく、悪いことをする人が悪いので、そうしたことには負けずに、県民の生活が便利で良いものになるよう、デジタル化を進めていただきたい。

●竹下部会長

- ・ 能登委員はいかがか。

●能登委員

- ・ 私は既にデジタル弱者であり、毎日大変だと思っているが、皆さんの話のとおり、娘に教えてもらっている状況なので、やはりサポーターの育成は大変重要なことだと思っている。
- ・ 国全体がデジタル化されていく中で、最も気になっているのが防災についてである。防災のデジタル化を重視し、強化していただき、誰でもスマートフォンを見ることで、水害や地震などの災害に対する備えができる状況を作っていただきたい。

●竹下部会長

- ・ 防災や、高齢者が詐欺等の被害に遭わないための対策について、具体的な方策に記載があってもよいのではないかと思う。
- ・ 皆さんには長時間にわたって御意見をいただき、非常に御難儀をおかけした。感謝申し上げます。最後に全体を通して、修正や追記、言い残したことなどあれば、お聞きしたいが、いかがか。

(意見なし)

●竹下部会長

- ・ それでは、以上で意見は出そろったということで、意見集約は終了とさせていただきます。
- ・ 部会としての開催は今回で最後となるため、今後は、本日の御意見を取り入れた提言書案を事務局と私が協議しながら作成したいと思う。皆さんには、電子メール等で提示し、御意見をいただく機会を設けたいと思うが、細かい修正等については私に一任していただいてよろしいか。

(異議なし)

●竹下部会長

- ・ 感謝申し上げます。最後に議事「(2)その他」について、事務局から何かあるか。

(2) その他

□事務局

- ・ 今後の提言書案のまとめ方等について説明

●竹下部会長

- ・ 委員の皆さんはよろしいか。

(意見なし)

●竹下部会長

- ・ 本日は長い時間、皆さんに御協力いただき、感謝申し上げます。全体を通して、皆さんの身近な話題に即した、大変貴重な御意見をいただくことができ、大変ありがたいと感じている。
- ・ このような形で皆さんと意見交換できたことは、非常に有意義であったと思っている。皆さんのおかげで非常に良い提言書ができるものと思っている。改めて御礼申し上げます。
- ・ 部会で出た御意見を、是非、県政に反映させていただきたいと思う。以上にて終了とさせていただきます。それでは、進行を事務局にお返す。

□事務局

- ・ 閉会に当たり、水澤あきた未来創造部次長から一言お礼を申し上げます。

□水澤あきた未来創造部次長

- ・ 本日は長時間にわたり、熱心な御審議、御議論を賜り、感謝申し上げます。
- ・ 今年度の当部会においては、未来創造・地域社会づくりの推進に当たり、戦略に掲げている、社会減や自然減の抑制に向けた取組の加速化と、県民誰もが一人ひとり生き生きと生活できる地域づくりを目標として、委員の皆さんから幅広く、様々な視点で御意見をいただいた。
- ・ 3回にわたり部会を開催したところ、皆さんから大変熱意があり、意欲的な御意見をいただくことができ、改めて御礼申し上げます。今回いただいた御意見は提言書にまとめさせていただきますが、提言書については、来年度実施する事業の企画・立案の際に、十分に参考にするほか、事業実施に当たってももちろん参考にして、効果的な施策の推進に努めて参りたい。
- ・ 部会長をはじめとして委員の皆さんには、非常に御難儀をおかけしたが、引き続き、様々な視点で御指導・御助言をいただければ大変ありがたいと思っている。今後も、県では人口減少問題や少子化の対策のほか、地域の活性化等を進めていくので、皆様にも様々な場面で御尽力いただけるようお願い申し上げます。

□事務局

- ・ 以上をもって、令和4年度秋田県総合政策審議会第3回未来創造・地域社会部会を閉会する。

以上